

## 事業成果報告書

### 〔取組Ⅰ〕都道府県教育委員会による小中一貫教育推進に関する取組

1. 都道府県教育委員会名 : 栃木県教育委員会
2. 取組の名称 : 栃木県小中一貫教育推進事業

#### 3. 事業の実績

##### (1) 事業のねらい

県教育委員会の助言の下で、小中一貫教育を推進しようとする県内の協力市教育委員会が、小中一貫教育の質の向上や地域の実態に応じた多様な取組について調査研究を行う。県教育委員会としては、協力市教育委員会と連携を図り、推進体制を整備し、有識者の助言等を得ながら協力市教育委員会の支援を行う。

また、これらの研究成果を市町教育委員会や各学校に周知し、市町における小・中学校間の円滑な接続や相互の連携を促進するとともに、安定的・効果的な小中一貫教育の実施につなげ、公教育の質の向上を目指す。

##### (2) 事業の実施状況

県は、推進協議会や協力市の研修等視察を実施し、各市の小中一貫教育の質の向上や地域の実態に応じた多様な取組を推進していく。また、「栃木県小中一貫教育ガイドライン」の活用促進を図り、協力市以外で小中一貫教育に今後取り組もうとする市町教育委員会にも、助言できるようにしていく。

成果については、協力市教育委員会や関係教育事務所と連携を図り、有識者の助言を得ながら、「栃木県小中一貫教育フォーラム」を開催し、県内外の教育関係者や県内小・中学校等の保護者にも参加を呼びかけ、小中一貫教育についての理解を広く促していく。

##### (3) 事業の成果

「推進協議会」を年2回開催するなど、推進体制の構築に努めることができた。小中一貫教育を推進する上で課題となる内容について協議を重ね、有識者からの助言も得ながら、小中一貫教育に関する理解を一層深めることができた。

また、各協力市へ訪問を行い、先進的取組の様子を収集・分析して調査研究を行うとともに、「栃木県小中一貫教育ガイドライン」の活用促進を図ったことで、小中一貫教育の導入を進めようとする市町や学校に対して方向性を示すことができた。その結果、多くの学校で活用が図られている。

さらに、3年間のまとめとして「栃木県小中一貫教育フォーラム」を開催し、県内外に取組の成果を発信することができた。

##### (4) 今後の取組予定

小中一貫教育は息の長い取組であるため、時間が経過する中で、徐々に取組（活動）そのものが目的化してしまうことも考えられる。「何のために小中一貫教育を行うのか」、「小中一貫教育で何を目標しているのか」という根本に常に立ち返りながら、児童生徒の状況を踏まえて、不断に取組の検証・改善を繰り返すことができるよう、「栃木県小中一貫教育ガイドライン」のより一層の活用について周知に努める。

コミュニティ・スクールを導入する市町が増えてきていることから、小中一貫教育との親和性や地域とともにある学校づくりについての研究・調査を進め、小中一貫教育とコミュニティ・スクールを一体的に推進する地域への支援を図る。

## 4. 取組Ⅰの実績

## (1) 取組のねらい

<p>(1) 小中一貫教育推進協議会の実施 有識者を招き、庁内関係各課及び本事業を受託している協力市の関係者により、情報交換及び協議、助言等を行うことで、各市の取組の質の向上を図る。</p> <p>(2) 小・中学校教育課程等に関する調査における県内小中一貫（連携）教育の状況把握 県で実施している教育課程等に関する調査において、小中一貫教育の取組等に関する設問を追加し、県内の状況を把握する。</p> <p>(3) 各協力市への研修会等への参加 委託している市が行っている公開授業や研修会、協議会等に参加することで、各市の取組の状況を把握し、適切な助言を行う。</p> <p>(4) 先進地視察 小・中学校9年間を見通した教育課程等を工夫している学校等を視察し、優れた実践を共有する。</p> <p>(5) 「栃木県小中一貫教育フォーラム」の開催 本事業で得られた先進的な取組を県内外に広く周知し、小・中学校間の円滑な接続や連携の促進を図ることで、公教育の質の向上を目指す。</p>
--

## (2) 取組Ⅰの実施状況（平成30年度）

4月	
5月	
6月	<p>◇第1回庁内会議 ・担当内で本年度の取組の確認 ・小中一貫教育推進協議会、小中一貫教育フォーラムの持ち方、内容等</p> <p>○「小・中学校教育課程等に係る調査」実施（県内の取組状況） ○第1回烏山中学校区小中一貫教育推進委員会訪問（那須烏山市立烏山中学校）</p>
7月	<p>◆第1回小中一貫教育推進協議会（7/5）の開催 ・本事業の成果と課題の検証、フォーラムに向けた検討</p>
8月	<p>○那須烏山市小中一貫教育推進フォーラム参加（烏山公民館） ○小山市中学校ブロック研修訪問（小山市立絹義務教育学校）</p>
9月	<p>◇第2回庁内会議 ・フォーラムの案内作成、成果報告書書式等検討 ○フォーラム第一次案内配布</p>
10月	<p>○三島中学校区第2回小中一貫教育推進委員会訪問（那須塩原市立三島中学校）</p>
11月	<p>◇第3回庁内会議 ・フォーラムの運営等の確認 ○フォーラム最終案内配布（参加者募集開始） ○周南小中一貫教育フォーラム視察（千葉県君津市立周南小学校・中学校）</p>
12月	<p>◆第2回小中一貫教育推進協議会（12/13）の開催 ・フォーラムにおける発表内容及び成果報告書等の検討 ○金田南学園（金田南中学校区）公開研究発表会（大田原市立金田南中学校）</p>
1月	<p>◆栃木県小中一貫教育フォーラムの開催（1/28） ○「栃木県における取組－栃木県小中一貫教育フォーラム－」（成果報告書）の配布</p>
2月	<p>○ホームページの作成、掲載</p>
3月	

## (3) 取組の成果

<p>(1) 小中一貫教育推進協議会の実施 第1回推進協議会では、「本事業の成果と課題をどのように検証していくか」について有意義な協議ができた。また、第2回推進協議会では、フォーラムに向けた各協力市におけるこれまでの取組について発表を行い、3年間の取組について総括することができた。</p> <p>(2) 小・中学校教育課程等に関する調査における県内小中一貫（連携）教育の状況把握 県内ほぼ全ての小・中学校において、連携が図られていることが分かった。また、義務教育学校の設置に向けた取組や、小中一貫教育の導入に向けた取組についても把握することができた。</p> <p>(3) 各協力市への研修会等への参加から 地域や児童生徒の実態に応じた研修会等が実践されていることが確認できた。授業研究会や実践発表等では、「目指す子ども像」が共有され、9年間を見通した教育課程の編成・実施等もなされていた。各市教育委員会のリーダーシップの下、各学校では主体的に研究に取り組んでいた。今後は、9年間の系統性を意識した教育課程の編成が課題になると思われるため、研究を重ねていきたい。</p> <p>(4) 先進地区視察 小中一貫教育を行う学校を視察し、連続性を意識して工夫された教育課程の実際をみることであった。また、フォーラムの開催に向けた運営等にも生かすことができた。</p> <p>(5) 「栃木県小中一貫教育フォーラム」の開催 3年間のまとめとして、県内外に取組の成果を発信することができた。また、小中一貫教育の理解促進と今後小中一貫教育に取り組もうとする県内外市町及び学校に対して、方向性を示すことができた。</p>
--

## (4) 今後の取組予定

<p>各自治体や学校が小中一貫教育に取り組む際の参考となるよう「栃木県小中一貫教育ガイドライン」と併せて「栃木県における取組－栃木県小中一貫教育フォーラム－」（成果報告書）の積極的な活用が図られるよう、継続して周知に努める。</p> <p>小中一貫教育とコミュニティ・スクールを一体的に推進する地域への支援を図る。</p> <p>今後も引き続き市町教育委員会と連携し、成果や課題についての情報交換や共有を図ることで、県内全体における小・中学校間の更なる円滑な接続を目指す。</p>
--

## 5. [取組Ⅱ] を実施した協力市町村教育委員会等

通し番号	教育委員会等の名称	
Ⅱ－1	小山市教育委員会	
Ⅱ－2	那須烏山市教育委員会	
Ⅱ－3	大田原市教育委員会	
Ⅱ－4	那須塩原市教育委員会	

## 事業成果報告書

## 〔取組Ⅱ〕市町村教育委員会等による小中一貫教育の域内全域での導入に向けた取組

通し番号

Ⅱ－１

1. 市町村教育委員会等の名称 : 小山市教育委員会

住所 : 栃木県小山市中央町1-1-1

代表者職・氏名 : 教育長 酒井 一行

2. 取組の名称 : 小山市小中一貫教育推進に向けて

3. 取組Ⅱの実績

(1) 取組のねらい

本市の小中一貫教育については、平成19年度から始まった「小中連携プロジェクト」以来、義務教育9年間を通して、児童生徒一人一人の個性や能力を最大限に伸ばすための育ちや学びをつなぐ指導の在り方について、中学校区ごとに工夫を重ねてきた。これまでの各中学校区における研究の中で、成果の見られた取組については、継続・一部改善し、学校や中学校区の実態に合わせ効果的・効率的な接続が推進されるようにするとともに、課題となっていることについては、学校や中学校区の声を反映させ、検討・改善しながら、教職員・児童生徒・保護者・地域住民が参画し、共に創る「共創の教育」を推進し、その教育活動の充実を図っていく。そして、学校・家庭・地域社会が協力し、児童生徒一人一人の個性や能力の伸長や豊かな人間性・社会性の育成につながる学校教育のより一層の充実が図られるよう努めていく。

具体的な取組として、平成29年度から市内11中学校区（義務教育学校を含む）で小中一貫教育を全面実施したことから、平成30年度は、その基となる「小山市小中一貫教育推進基本計画（5か年期間）」の2年目として、各中学校区の実情に応じて取り組んでいくこととした。全面実施2年目として各中学校区では、小中一貫教育の研修体制や推進体制が組まれるようになり、連携協力体制が整った。年度末には、各中学区において全面実施の取り組み2年目を振り返るとともに検証を行い、3年目につなげていく。

また、平成30年度は、平成29年度の小中一貫教育全面実施を受けて、小中一貫教育とは両輪の関係にあると言われる「地域とともにある学校づくり」をテーマとし、小中一貫教育との密接な関連性にも触れながら、そのねらいや具体的な内容を広く知っていただくために、教育フォーラム2019を開催する。

さらに、小中一貫教育の取組をきっかけとして、中学校区ごとに学級運営力、授業力の伝承を図る「レジェンド講座」、「マイスター事業」を開催する。

(2) 取組Ⅱの実施状況（平成30年度）

4月	
5月	
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小山市小中一貫教育の全面実施2年目の取組スタート</li> <li>・小山市小中一貫教育推進基本計画パンフレット等の異動教職員配布</li> <li>・各中学校区での取組（推進教員打合せ、全体研修会、研究推進会議、授業研究会、交流活動）（通年）</li> <li>・中学校区ごとに実施するレジェンド講座・マイスター事業の随時開催（通年）</li> <li>・小山市小中一貫教育推進に向けた研修会（全体研修会）の開催</li> </ul>

7月	・平成30年度小中一貫教育推進事業第1回推進協議会に参加
8月	
9月	
10月	
11月	・先進地視察：「第13回小中一貫教育全国サミットinおおつち」に参加(9～10日) ・「平成30年度小中一貫教育推進事業第2回推進協議会」に参加(29日)
12月	・先進地視察：「第3回日本義務教育学会総会・研究大会」に参加(1日) ・平成30年度小中一貫教育推進事業第2回推進協議会に参加(13日)
1月	・「教育フォーラムおやま2019」の開催(19日) ・「栃木県小中一貫教育フォーラム」に発表者・シンポジストとして参加(28日)
2月	・各中学校区において小中一貫教育5か年計画2年目に向けた計画・カリキュラムの見直し
3月	

## (3) 取組の成果

<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内全中学校区での小中一貫教育の導入 「小山市小中一貫教育推進基本計画（5か年期間）」における2年目の取組項目について、各中学校区ごとに、実情に応じた取組を進めることができた。</li> <li>・絹義務教育学校2年目 県内初の義務教育学校である「絹義務教育学校」が開校2年目となり、義務教育学校としての成果と課題の分析・研究を進めることができた。県内外から多くの視察を受け入れ、絹義務教育学校の取組の成果は大いに県内外の自治体の参考となっており、小山市の小中一貫教育の取組を広く発信することができている。今後も学校と教育委員会事務局とで協力・連携して分析・研究・発信の充実に努めていきたい。</li> <li>・栃木県小中一貫教育フォーラムへの発表・シンポジストとしての参加 絹義務教育学校と市教育委員会事務局で参加。小山市の取組を県内外の担当者に広く周知することができた。</li> <li>・教育フォーラムおやま2019の開催 小山市で推進する「地域とともにある学校づくり」と「小中一貫教育」とについて理解を深めるため、文部科学省CSマイスター 京都光華女子大学准教授 西 孝一郎氏による講演会を開催し、教職員や地域住民約150名の参加を得ることができた。また、各中学校区における小中一貫教育の取組について、パネル展示を行いPRをすることができた。</li> </ul>
--

## (4) 今後の取組予定

<ul style="list-style-type: none"> <li>・「小山市小中一貫教育推進基本計画（5か年期間）」の3年目の取り組み項目について、各中学校区の実情に応じた取組を進める。</li> <li>・小中一貫教育の評価および評価手法の研究を行う。</li> <li>・「第二期小山市小中一貫教育推進基本計画基本計画（仮称）」の策定に向け、PDCAサイクルを活用、調査研究を行う。</li> <li>・上記した二つの研究や調査のため、教職員等からなる「小中一貫教育推進基本計画策定委員会」を開催する。</li> </ul>
--

## 事業成果報告書

### 〔取組Ⅱ〕市町村教育委員会等による小中一貫教育の域内全域での導入に向けた取組

通し番号	Ⅱ - 2
------	-------

1. 市町村教育委員会等の名称 : 那須烏山市教育委員会

住所	栃木県那須烏山市大金240番地
代表者職・氏名	教育長 田代 和義

2. 取組の名称 : 「4づくり（まなび・こころ・からだ・サポート）部会」を中心に「めざす子ども像」を明確にした小中一貫教育の創造

3. 取組Ⅱの実績

(1) 取組のねらい

本市で取り組んでいる小中一貫教育の軸に「4づくり（まなび・こころ・からだ・サポート）部会」がある。その中で「英語ヴィレッジ構想」の充実を目指し、「まなびづくり」部会に焦点を当て、小学校第6学年の授業実践を核とした取組を実践する。

(2) 取組Ⅱの実施状況（平成30年度）

4月	
5月	
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○市校長会               <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の方向性の確認をした。</li> </ul> </li> <li>○第1回市推進協議会               <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年度事業の目的等の確認をした。</li> <li>・那須烏山市役所にて、推進委員（大学教授・校長等）を招集し、事業計画、経費などについて協議した。</li> </ul> </li> <li>○先進地視察（福井県福井市）*市費               <ul style="list-style-type: none"> <li>・各小学校教員10名と事務局職員で福井市の小学校を視察した。</li> </ul> </li> <li>○中学校区別運営研修会               <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年度事業推進体制等の確認と“めざす子ども像”を設定をした。</li> </ul> </li> <li>○“めざす子ども像”に向けた事業の実践               <ul style="list-style-type: none"> <li>・各小学校、中学校の計画に基づく事業の実践を行った。</li> </ul> </li> <li>○教職員の交流授業</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○第1回県小中一貫教育推進協議会               <ul style="list-style-type: none"> <li>・県教育委員会事務局、協力市が参加し、本市の取組状況を説明した。</li> </ul> </li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○那須烏山市小中一貫教育推進フォーラム               <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内各小・中学校教員120名が参加し、各中学校区の取組の発表、大学教授による講話を行った。</li> </ul> </li> <li>○中学校区別運営研修会               <ul style="list-style-type: none"> <li>・交流授業の計画を中心に話し合った。</li> </ul> </li> </ul>
9月	

10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○南那須中学校区での交流授業 <ul style="list-style-type: none"> <li>・江川小学校、荒川小学校の第6学年が南那須中学校の教室を利用し、中学生と小学生によるペア学習を取り入れた英語の授業を実施した。</li> </ul> </li> <li>○烏山中学校区での交流授業 <ul style="list-style-type: none"> <li>・境小学校、烏山小学校、七合小学校の第6学年が烏山中学校の教室を利用し、中学生と小学生によるペア学習を取り入れた英語の授業を実施した。</li> </ul> </li> </ul>	
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○先進地視察（岩手県大槌町）*市費 <ul style="list-style-type: none"> <li>・市教育委員会事務局の職員が全国フォーラムに参加した。</li> </ul> </li> <li>○中学校区別運営研修会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・交流授業の反省及び次回の計画を話し合った。</li> </ul> </li> </ul>	
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○先進地視察（福井県福井市）*市費 <ul style="list-style-type: none"> <li>・各中学校教員4名と市教育委員会事務局職員で福井市の中学校を視察した。</li> </ul> </li> <li>○南那須中学校区での交流授業 <ul style="list-style-type: none"> <li>・江川小学校、荒川小学校の第6学年が南那須中学校の教室を利用し、中学生と小学生によるペア学習を取り入れた英語の授業を実施した。</li> </ul> </li> <li>○烏山中学校区での交流授業 <ul style="list-style-type: none"> <li>・境小学校、烏山小学校、七合小学校の第6学年が烏山中学校の教室を利用し、中学生と小学生によるペア学習を取り入れた英語の授業を実施した。</li> </ul> </li> <li>○アンケートの実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・南那須中学校、烏山中学校の第1学年及び江川小学校、荒川小学校、境小学校、烏山小学校、七合小学校の第6学年に対して、英語関係と中学校入学に対して等のアンケートを実施した。</li> </ul> </li> <li>○第2回県小中一貫教育推進協議会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・県教育委員会事務局、協力市が参加し、本市の取組状況を説明した。</li> </ul> </li> </ul>	
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○栃木県小中一貫教育フォーラム <ul style="list-style-type: none"> <li>・市の研究内容の発表とシンポジウムに参加した。</li> </ul> </li> <li>○取組のまとめ（成果物）作成 <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年間の取組のまとめをリーフレットとして作成・配布した。</li> </ul> </li> </ul>	
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○第2回市推進協議会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度活動報告及び次年度の方向性の確認した。</li> </ul> </li> <li>○中学校区別運営研修会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度事業の評価・反省及び次年度の計画について検討した。</li> </ul> </li> </ul>	
3月		

## (3) 取組の成果

- ・今年度も、外国語を中心に、具体的なテーマを設定し、マネジメントの充実を図った。
- ・小中一貫教育によって、何を、どう実施し、何ができるようになるのかを明確にすることができた。特に“めざす子ども像”を明確に設定したことで、取組が明瞭になるとともに、評価・改善につながりやすくなった。
- ・中学校区で英語の交流授業を行ったことで、学区内にある小学校の児童生徒同士のつながりができるとともに、教職員の意識改善や授業改善につながった。

## (4) 今後の取組予定

- ・3年間の成果を踏まえ、4づくり部会全体の充実を図りたい。特に各部会での“めざす子ども像”を明確にし、実践・評価の充実を図る。
- ・小学校と中学校の教職員同士の交流を充実させ、互いの授業にT・Tとして参加したり、学校生活を見たり体験したりする活動を行う。

## 事業成果報告書

## 〔取組Ⅱ〕市町村教育委員会等による小中一貫教育の域内全域での導入に向けた取組

通し番号

Ⅱ－３

1. 市町村教育委員会等の名称

:

住所	: 栃木県大田原市本町1-4-1
代表者職・氏名	: 教育長 植竹 福二

2. 取組の名称

: 大田原市小中一貫教育推進事業

3. 取組Ⅱの実績

(1) 取組のねらい

小中一貫教育について教職員の理解を深めるとともに、コミュニティ・スクールと一体化して推進することで、保護者・地域住民の小中一貫教育への理解を広げる。

また、市の小中一貫教育のねらいである学力向上に向けて、教職員対象の研修会や各中学校区における小中合同授業研究会の充実に努める。外部有識者からの指導機会を積極的に設けたり、各中学校区の取組について公開研究会を開催したりすることで、教員の授業力向上を核とした小中一貫教育の充実に図る。

そして、公开发表会や視察研修を実施することで、各中学校区が他地区を参考にしつつ、自中学校区の実情にあった小中一貫教育を展開できるようにする。

さらに、市の推進計画と教職員用ガイドラインの見直しも図り、次年度以降の更なる充実と持続可能な小中一貫教育の仕組みを整える。

(2) 取組Ⅱの実施状況（平成30年度）

4月	
5月	
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内全小・中学校で小中一貫教育の実践開始</li> <li>各中学校区の総合調整を行う校長の任命</li> <li>第1回市小中一貫教育検討委員会開催</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>小中一貫授業研修会開催①</li> <li>第1回推進協議会（県）参加</li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1回市小中一貫教育教職員研修会開催</li> <li>小中一貫授業研修会開催②</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>小中一貫授業研修会開催③ (平成30年度版市小中一貫教育推進計画の策定)</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>小中一貫教育に関わる先進地視察研修実施（東京都品川区立品川学園）</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>市小中一貫教育研究地区公开发表会（野崎中学校区）</li> <li>小中一貫授業研修会開催④</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>市小中一貫教育研究地区公开发表会（金田南中学校区）</li> <li>第2回市小中一貫教育検討委員会開催</li> <li>第2回市小中一貫教育教職員研修会開催</li> <li>平成31年度版市小中一貫教育推進計画策定</li> <li>第2回推進協議会（県）参加</li> </ul>



1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市小中一貫教育研究地区公開発表会（湯津上中学校区）</li> <li>・小中一貫授業研修会開催⑤</li> <li>・小中一貫授業研修会開催⑥</li> <li>・栃木県小中一貫教育フォーラム取組発表</li> <li>・平成31年度版市小中一貫教育ガイドブック作成</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成31年度版市小中一貫教育ガイドブック配布</li> <li>・平成31年度の各中学校区調整校長の選出</li> </ul>
3月	

## (3) 取組の成果

・小・中学校合同の研修会や視察研修等を経ることで、教職員の小中一貫教育についての理解が深まったり、授業力向上が図れたりした。  
 ・中学校区で学校運営協議会を設置したり、小中一貫教育の公開研究発表会等を実施したりすることで保護者・地域住民に小中一貫教育の理解が広がった。  
 ・各中学校において小中一貫教育を推進する仕組みが整うとともに、小・中学校の教職員の一体感が高まった。  
 ・有識者による検討委員会や各中学校区の取組を経て、市の方針の改善が図られ、更に具体的で明確な方針となった。

## (4) 今後の取組予定

平成31年度には研究指定地区3地区（大田原中学校区・親園中学校区・黒羽中学校区）の公開発表を実施し、更なる教職員の理解を深めるとともに、保護者・地域住民への周知を図る。さらに、研修会の実施等を継続して行い、市として持続可能な小中一貫教育の体制を整える。

## 事業成果報告書

## 〔取組Ⅱ〕市町村教育委員会等による小中一貫教育の域内全域での導入に向けた取組

通し番号

Ⅱ－４

1. 市町村教育委員会等の名称 : 栃木県那須塩原市教育委員会

住所 : 栃木県那須塩原市あたご町２番３号

代表者職・氏名 : 教育長 大宮司 敏夫

2. 取組の名称 : 那須塩原市小中一貫教育

3. 取組Ⅱの実績

(1) 取組のねらい

教育委員会の中心施策「人づくり教育」の実現には、全教職員が児童生徒の中学校卒業時の姿をイメージし、自分がどの発達の段階を受けもっているのかを常に意識して指導にあたる必要がある。また、本市の大きな教育課題は、不登校児童・生徒の出現率が高いことである。これらの実態から、小中一貫教育の導入により、9年間を見通した教育を推進すると同時に中1ギャップの解消を図り、不登校児童・生徒を減少させたい。

具体的には、有識者等の講師を招き、小中一貫教育推進に係る研修会を実施して教職員の指導力を向上させたい。また、グランドデザインを作成・配布することで、小・中学校教職員の意識統一と相互理解を図りながら、保護者や地域住民に対して小中一貫教育の内容を周知し、理解を得たい。

(2) 取組Ⅱの実施状況（平成30年度）

4月		
5月		
6月	<p>[市教委]市内校長会議にて、平成29年度末に実施した小中一貫教育アンケート調査の結果を報告した。また、平成30年度の那須塩原市小中一貫教育実施計画及び小中一貫教育推進事業の実施内容を説明し、理解と協力を得た。中学校区の成果指標一覧を提示した。また、中学校区の事務局校に対し、小中一貫教育推進に関する研修会実施の事務手続きについて周知した。</p> <p>[各中学校区]小中一貫教育推進のための組織を編制し、本年度の研究の方向性と成果指標について話し合った。また、小中一貫教育進捗状況確認表を市教育委員会に提出した。</p> <p>[日新・黒磯北中学校区]小中一貫教育に係る研修会を実施した。</p>	各地区の担当指導主事が、学校からの要請に応じて
7月	<p>[市教委]小中一貫教育推進事業第1回推進協議会に参加した。また、小中一貫教育に係る研修会を実施した。</p> <p>[黒磯・西那須野中学校区]小中一貫教育に係る研修会を実施した。</p>	
8月	[黒磯中学校区]小中一貫教育に係る研修会を実施した。	
9月	<p>[市教委]小中一貫教育に係る研修会を実施した。</p> <p>[厚崎中学校区]小中一貫教育に係る研修会を実施した。</p>	

10月	[高林中学校区]小中一貫教育に係る研修会を実施した。 [市教委]小中一貫教育グランドデザイン作成に関する事務手続きについて、事務局校に周知した。	会議や研修会に参加し、指導・助言を行った。	
11月	[黒磯・厚崎・日新・東那須野・三島中学校区]小中一貫教育に係る研修会を実施した。 [市教委]小中一貫教育に係る研修会を実施した。		
12月	[各中学校区]グランドデザインの原稿を市教委に提出した。 [市教委]小中一貫教育推進事業第2回推進協議会に参加した。 リーフレット・グランドデザイン印刷に関する事務手続きを開始した。 [黒磯北・三島・箒根・塩原小中学校区]小中一貫教育に係る研修会を実施した。		
1月	[黒磯・東那須野・高林中学校区]小中一貫教育に係る研修会を実施した。 [市教委]栃木県小中一貫教育フォーラムにて研究発表を行った。 リーフレット・グランドデザイン作成に関する事務手続きを完了した。 小中一貫教育推進事業研究報告書を作成した。 [各中学校区]小中一貫教育推進事業研究報告書と進捗状況確認表を提出した。		
2月	[日新・塩原小中学校区]小中一貫教育に係る研修会を実施した。		
	[市教委]小中一貫教育に係る研修会を実施した。 小中一貫教育推進事業完了報告書及び成果物を作成・提出した。		
	[市教委]市内校長会議にて、小中一貫教育推進に関する次年度の方針を説明した。また、小中一貫教育に関するアンケート調査を実施した。		
	[各中学校区・市教委]小中一貫教育グランドデザインの配布・活用方法について確認する。各校に研究報告書を配布する。 [市教委]アンケート調査の結果を分析し、成果と課題を確認する。 (次年度4月の校長会議にて周知する予定。)		
3月			

## (3) 取組の成果

<p>各中学校区の小中一貫教育に対する意識が高まり、「校区内の小・中学校が協力して事業に取り組むようになった。」「児童生徒に対して共通理解することができた。」といった学校からの声が増えた。各中学校区で行われた研修会により、小中一貫教育の進め方や児童生徒への指導方法についての理解が深まり、授業の改善につながった。</p> <p>また、数値による成果指標を設定したことで、同じゴールに向かって小・中学校の教員が積極的に協力し合って取り組むようになった。数値目標を設定したことにより、各期・各学年において取り組むべき内容がより明確で具体的になり、日々の教育活動で小中接続を意識して行う意識が教職員に生まれた。自信をもって積極的に自己表現をする児童生徒の姿に、小中一貫教育の有効性と必要性を実感として理解した教職員も増えた。</p> <p>市の小中一貫教育リーフレットや各校区のグランドデザインの作成・配布により、地域や保護者にも本市小中一貫教育に対する理解が徐々に深まっている。また、グランドデザインを作成する作業を通して、校区で取り組むべき内容の再確認や次年度に向けた改善事項などが明らかになったとの報告があった。</p>
--

## (4) 今後の取組予定

<p>文部科学省指定の本事業は、今年度で終わるが、小中一貫教育は本市の中心的な教育施策であるため、次年度以降も、中学校区ごと及び市教育委員会による小中一貫教育に係る研修会を実施するとともに、グランドデザインの作成を全中学校区で行い、本市全体で小中一貫教育を推進したい。その際、中学校区ごとに策定した成果指標や、市教育委員会が行ったアンケート調査の経年変化に着目し、改善すべき内容を焦点化した上で、次年度の計画が策定できるように指導・助言したい。</p> <p>また、平成29年度から三つの校区で開始した地域学校協働本部の活動を全校区に広げ、地域をより一層巻き込んだ取組になるよう事業の深化充実に努めたい。将来的には、本研究の成果を生かせるよう、運営協議会等の設置も視野に入れて継続的に研究を進めたい。</p>
--